

北九州工業高等専門学校年度計画（平成 29 年度）

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

- 地域の中学校校長会および中学校教員、学習塾講師を対象にした入試説明会、中学校訪問、夏と秋のオープンキャンパス、近隣の高専との合同入試説明会を継続して実施する。
- 大括り入試の特徴や入試関係書類に関する留意点など、中学校教員、塾講師にとって、有用な情報をより多く提供する。
- インターネット・HPを活用して、中学生にとって魅力ある北九州高専をPRする。
- 中学校対象の出前授業の実施
- 中学生を対象とする各種イベントの参加
- オープンキャンパス、出前授業、公開講座の募集方法や実施内容、PR方法を検討し、志願者確保に向けた継続的な取り組みを行う。
- 引き続き、本校における各種説明会等においてアンケートを実施し、そのデータを分析した結果を全教職員で情報共有し、改善点については迅速に対処する。
- 引き続き、オープンキャンパスや公開講座等において、女子在学生の協力を得ながら女子中学生の志願者確保を目指す。
- 引き続き、公開講座や出前授業でのものづくり体験などを通して本校の特色をアピールし、志願者の増加を目指す。
- 引き続き、近隣高専との合同入試説明会を継続して実施する。（女子中学生向けパンフレット等の利活用を含む。）その際、女子在学生の質問コーナーを設け女子中学生、保護者からの質問・相談に対応する。
- 高専女子学生の進学や就職など具体的な情報を発信する。
- 女子在学生の学校生活等を紹介する内容を含めた映像を作成し、女子中学生向けの広報活動に活用する。
- 引き続き、ポスター、パンフレット、リーフレット、マスコミ、HPなどを活用し広報活動の強化を図る。また、近隣の小・中学校や公民館等にも出向き、本校のPR活動を推進する。
- 推薦入試方法、募集人員や募集要項が適切であるか、APを意識したものになっているか、引き続き検討する。
- 帰国子女対象の特別選抜の出願資格をより受験しやすいように改善する。
- 入試ミスの防止のため、入試ミスの事例集をガールーン上に保存し、事例集を活用しやすくする。
- 入学志願者に関わる調査、入試選抜方法に関わる成績データ等の分析を継続し、情報共有を図る。
- 女子中学生向けの各種パンフレットの利活用、オープンキャンパス時の懇談会実施など、女子志願者確保に向けた取組みを継続して行う。
- 優れた取組や特徴ある取組について情報発信し、北九州高専ブランドの確立を強化する。
- 女子学生の修学環境の改善のため、女子学生を対象としたアンケートに基づき、寮、トイレ、更衣室等、必要な改修整備について計画を立て、推進する。

(2) 教育課程の編成等

- 本科、専攻科の改組については、平成 27 年度に同時改組を行い、現在、学年進行中であり、引き続き、完成年度まで改組を滞りなく実施する。
- KOS EN4.0 の事業計画に沿って、カリキュラムの見直しについて検討する。
- 5 年生で、1 ヶ月程度の海外研修が可能になるよう（グローバル対応特別カリキュラム）、規則等を整備する。
- 留学生の増加などの更なる高度化について、継続して検討する。
- 継続している地域企業との共同教育（専攻科特論Ⅱ、Ⅲ）を行う。また、専攻科専門科目において一部外国人講師による英語での専門授業を引き続き実施する。
- 地元企業・他大学・市との連携によるロボット産業やプラント産業と連携した企業の現役技術者による育成講座を継続開催する。
- 学内教員間の研究連携を強化する。
- 卒業研究及び特別研究テーマの高度化と充実を図る。
- 第 5 ブロックのグローバル高専プログラム準拠点校として活動する。
- KOS EN4.0 の事業計画に沿って、カリキュラムの見直しについて検討する。
- 求人企業に加え、KOS EN4.0 の事業計画で謳っている、実践的課題解決型 PBL の協力企業などからニーズを徴取し、分析する。
- 学内教員間の研究連携を強化する。
- 卒業研究や特別研究テーマの高度化と充実を図る。
- 地域企業と連携した卒業研究や特別研究にも積極的に取り組む。
- 学習到達度試験や課題テスト（本校独自に 4 月と 9 月に実施）の結果を教育にフィードバックさせ、学力とモチベーションの向上に活用する。
- 全国の学習到達度試験結果を学内に周知し、学生のモチベーション向上に繋げる。
- CBT トライアル参加について検討する。
- TOE I C の全体的結果の年度毎の推移について、全教員に周知し、英語力伸長の取組について検討する。
- 専攻科では、専門科目の授業の中で一部外国人講師による英語での専門授業を継続実施する。
- 引き続き、授業アンケート、達成度アンケートを実施し、授業改善効果について分析する。
- ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン、体育大会に出場する学生を支援する。特に、平成 29 年度九州沖縄地区高専体育大会では、主幹校となるので円滑な運営に努める。また、平成 30 年度全国高専体育大会の開催担当競技運営及び主管業務について、平成 29 年度学内の体制を整え準備に着手する。
- ロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン、体育大会以外の課外活動、社会奉仕体験活動や自然体験活動について取りまとめ、積極的な支援を整備する。

(3) 優れた教員の確保

- 優れた教員を確保するため、多様な背景を持つ教員（現在 69%）採用を継続的に図る。
- 他高専・技科大との人事交流を引き続き検討する。
- 大学・企業等との任期を付した人事交流について引続き検討する。
- 専門科目（理系の一般科目を含む。）は、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、一般科目は、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育能力を有する者の採用促進を図る。現在、専門科目（理

系の一般科目を含む。)の博士の学位を持つ者は約90%、一般科目の教員は全員修士以上の学位を持っている。引続き要件に合致する割合を維持するよう採用促進を図る。

- 教員公募に際し、女性のみ公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を一層進める。
- 高専教員の公募拡大に貢献するため、教職員の就業体験(インターンシップ)受け入れ事業の実施方法等について、企画検討する。
- 女性教員等の育児・介護等と教育研究業務の両立を支援する「研究支援員配置事業」を活用する。(1件応募予定)
- 育児・介護等ライフイベントにより研究活動を中断した女性教員に対して研究活動の復帰を支援する「Re-Start 研究支援」を活用する。(1件採択決定)
- 女性教職員の就業環境改善のため、H28に実施したアンケート調査結果を基に計画的に改善を推進する。
- 女性教職員に配置した施設の整備を推進する。
- 女性教職員の就業環境改善のため、更衣室やトイレ等の必要な改修計画など、必要な改修整備について計画を立て推進する。
- 教員の資質向上及びキャリアパス形成を目的とした講演会等の開催や、高専機構、企業、福岡県教育委員会等が主催する外部研修会へ計画的派遣を行う。
- 教員が参加した研修会等の報告や資料の集約と共有化を進める。
- FD研修会を年3回程度開催する。
- 学内での優れた取組みを取り上げ、学内FD活動の推進を役立てる。
- 学内において公開授業を実施し、授業方法等の改善の推進をする。
- 機構本部が実施する教員顕彰制度を引き続き実施する。
- 長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施する。今年度ニューヨーク市立大学での短期英語研修に1名が参加を希望している。

(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- Web シラバスシステムを利用してモデルコアカリキュラムの項目について点検を行う。
- ルーブリックを用いて到達目標を評価する体制を整備する。
- 各種研修会に教職員を派遣し、その内容や成果を学内で報告し、共有化を図る。
- モデルコアカリキュラムに基づいたカリキュラム実施のためのFD活動を行う。
- 「高専学生情報統合システム」のモデル校として、先行稼働に対応する。
- JABEE認定プログラムについて、H28年度に受審した継続審査結果も踏まえて、プログラムの点検、改善を行い、教育の質の向上に努める。
- 福岡3高専合同説明会を継続実施する。
- 近隣の高専と連携し、合同特別研究発表会の継続実施について検討する。
- 高専教育における特色のある優れた取組事例集を参考に、教育方法の改善を組織的に行う。
- 優れた教育実践例について、学内で講演会を行う。また、収集した事例について学内外で報告し各高専における教育改善を促進する。
- 自己点検・自己評価委員会において、平成28年度に実施した学校全体にわたる活動の点検・評価を行い、評価結果の学内周知とともに公開する。
- JABEE・認証評価専門部会において、平成32年度受審予定の高等専門学校機関別認証評価の準備を進める。
- APITS2018に係る企業と連携した高専アイデアソン等の企画及び実施に向けた準

備を進める。

- インターンシップの実績を取りまとめ、効果的な実施事例を収集する。
- 地域産業界と連携した、短期型ならびに長期型のインターンシップを継続する。
- 日本弁理士会との知財教育事業への参加を検討する。
- 高専関門連携（ブロックを超えた北九州・宇部高専連携による協調・共同教育）の準備状況を踏まえ、具体化に向けた意見交換を行い、企業技術者を活用した連携教育を開始する。
- I S A T Eに論文投稿及び教員派遣をする。
- 「三機関が連携・協働した教育改革」として取り組む教職員のFD研修について積極的に学内周知を行い参加希望者を募る。
- I S T Sへの学生派遣を促進する。
- I C Tを活用した教材や支援ツールの収集、開発を行い、学内での利活用を推進する。
- W e b c l a s sやb l a c k b o r dのI C Tを活用した教材及び教育方法、教材管理システムの開発と利活用を推進する。
- 学校内の通信ケーブルの再敷設、校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を行う。

(5) 学生支援・生活支援等

- 学生の安全な生活支援、校内生活のメンタル面の安定を図るため、しばしば学生間の争いその元となるSNSの危険性、また服装の乱れがもたらす危険性に関する講習を1～3年生を対象に行う。
- 学生の風紀を学生自ら監視し、検討・反省し、改善していく仕組みづくりを学生会と協力して考案する。そういった学生との協働を通して、教員の学生指導力の向上のみならず、学生においても主体的に校内の問題、広くは、社会の問題解決にイニシアチブを発揮できる人材を育成する。
- 学生の男女比率や入寮希望者数、留学生数増加の見込みを踏まえた上で、整備計画を検討・作成する。
- 日本学生支援機構など各種奨学金制度への申請を引き続き実施する。
- キャリア支援室会議の機能を充実させ、入学時からの計画的なキャリア育成支援策を検討し、随時実行する。
- 就職情報やインターンシップ情報の一元管理ツールの有効活用を検討する。
- インターンシップ参加学生に対する事前・事後教育を継続実施する。
- キャリア形成支援、意識啓発を目的とした女性技術者講演会及び懇談会を実施する。
- 学内において公開授業を実施し、授業方法等の改善の推進をする。
- 社会で活躍している本校OGによる講演会を実施する。
- 女子学生による公開講座等の実施や女子学生による学校説明会での説明等の機会を設け、女子学生のキャリア形成を支援する機会を充実させる。

(6) 教育環境の整備・活用

- 屋外給水管や照明器具、空調など、学内の老朽化した施設・設備を更新し、整備方針を計画する。併せて省エネへの取組を推進する。
- 図書館改修について、昨年度に引き続き、平成30年度施設整備概算要求を行う。予算化に向け、事業規模、費用等の適正性や教育研究等への効果について見直すとともに、改修中の対応についての検討を行う。

- 体育館バスケットゴール及び武道場照明器具改修は、平成27年度に改修済みである。
- PCB廃棄物については、平成26年度に処理済みである。
- 新入生に「実験実習安全必携」を配布・内容紹介し、教育研究支援室を中心とした実験開始前の安全教育を継続的に実施する。
- 各種実験及び実習における安全教育を継続的に実施する。
- 教職員対象に安全衛生管理関係講習会を実施する。
- 教員公募に際し、女性のみの公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用を一層進める。
- 高専教員の公募拡大に貢献するため、教職員の就業体験（インターンシップ）受入れ事業の実施方法等について、企画検討する。
- 女性教員等の育児・介護等と教育研究業務の両立を支援する「研究支援員配置事業」を活用する。（1件応募予定）
- 育児・介護等ライフイベントにより研究活動を中断した女性教員に対して研究活動の復帰を支援する「Re-start 研究支援」を活用する。（1件採択決定）
- 男女共同参画取組状況をHP等に掲載し、内外へ情報発信する。
- 男女共同参画に関する講演会へ参加し、意思啓発や改善に繋げる。

2 研究や社会連携に関する事項

- 高専機構新技術説明会への参加を検討する。
- 高専一技科大 新技術説明会への参加を検討する。
- 学内で科学研究費助成事業の説明会を実施する。
- 研究プロジェクト経費への応募を促進し、外部資金獲得につなげる。
- イノベーションジャパン等のマッチングイベントに出展する。
- 九州沖縄地区担当産学官連携コーディネータを活用し、外部資金獲得に促進する。
- 知的財産業務に従事する教職員向けの講習会の参加を検討する。
- ホームページ上の教員総覧を更新し常に最新の状態にしておく。
- 教員総覧（ダイジェスト版）2017を作成する。
- HPによる内外への情報提供を促進する。
- 多彩なプログラムを提供して公開講座をより充実したものにする。

3 国際交流等に関する事項

- ISTSへの教員・学生を派遣し、国際交流を推進する。
- 交流協定締結校との国際交流を推進する。
- 「三機関が連携・協働した教育改革」として取り組む教職員のFD研修について積極的に学内周知を行い参加希望者を募る。
- APITS2018に係る高専アイディアソン等の企画及び実施に向けた準備を進める。
- 在外研究員の派遣を推進する。
- 九州沖縄地区9高専と連携し、アジア圏にある協定企業へのインターンシップ、協定大学への語学研修・学生交流等への本校学生参加者数増を図る。
- 高専機構・九州沖縄地区9高専と連携して実施する学生派遣や留学生受入プログラムへの参加を検討する。
- 学生への海外での語学研修プログラムを企画・実施する。
- 学内の国際交流活動をより活性化するため、留学生と日本人学生が交流できる語学サロンを

月1回程度実施する。

- 九州沖縄地区の留学生交流研修に参加するとともに、本校外国人留学生とチューターとの交流研修を企画・実施する。
- 外国人留学生に対し日本文化の理解を深め日本の技術等を体験させるための日本文化体験事業を実施する。

4 管理運営に関する事項

- 昨年度に引き続き、中期計画の目標達成のため、予算専門部会において早期執行及び効果的・戦略的な予算配分を検討し、主事会議、運営委員会の審議を経て、迅速に予算配分を行う。
- 機構本部が実施する中核的役割を担う教員を対象とした管理職研修等に積極的に参加する。
- 第5ブロックで、協働共有事項について、検討及び実施する。
- 情報の移送・提供の手順を定め、情報管理の徹底及び教職員の意識向上を図る。
- 機構本部が作成した、コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、引き続き教職員のコンプライアンスの向上を図る。
- 会計内部監査の監査項目、監査体制を見直すとともに、高専相互会計内部監査前までに、内部監査を実施する。
- 独立行政法人国立高等専門学校機構における公的研究費等研究不正防止計画に基づき、不正防止に努める。
- 学内で公的研究費使用に関する研修会を実施する。
- 公的機関若しくは民間企業等が実施する学校運営、境域課題等に関する研修への積極的な参加を推進する。
- 他高専・他大学が主催する地区別の各種研修に積極的に参加しスキルアップを図る。
- 教職員の能力向上のために公的機関、一般企業等が実施する能力向上等の学外研修に参加させる。
- 職務に関して特に高く評価できる成果が認められる事務職員や技術職員の表彰制度を活用する。
- 事務職員及び技術職員の人事交流を引き続き推進する。
- 情報の移送・提供の手順を定め、情報管理の徹底及び教職員の意識向上を図る。
- 情報セキュリティに関する定期的な注意喚起、セキュリティソフトフェアの運用については、前年度に引き続き実施する。
- 実務担当者を対象とした人材育成研修へ担当者の派遣を実施する。
- 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の具体的な成果指標を設定した年度計画を策定する。

II 業務運営の効率化に関する事項

- 契約監視委員会等の意見を踏まえ、過年度に指摘を受けた事項について、適宜必要な改善を行うとともに、新規契約案件について、必要な点検・見直しを行うことにより、「調達合理化計画」のフォローアップを行う。

III 財務内容の改善に関する事項

- 共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金獲得への具体的で効果的な取り組みに対して予算配分を行う。

IV 他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画

- 屋外給水管や照明器具、空調など、学内の老朽化した施設・設備を更新し、整備方針を計画する。併せて省エネへの取組を推進する。
- 図書館改修について、昨年度に引き続き、平成30年度施設整備費概算要求を行う。予算化に向け、事業規模、費用等の適正性や教育研究等への効果について見直すとともに、改修中の対応についての検討を行う。

2 人事に関する計画

(1) 方針

- 教職員の他高専、大学等との人事交流を引き続き積極的に推進し、多様な人材育成を図り、資質の向上を図る。

(2) 人員に関する計画

- 教職員の職務能力の向上、効率化の施策について検討するとともに、高度化・再編に応じた教職員配置の検討を行う。